



前月末の子どもの姿

低月：目の前の物を目で追う・不快感や空腹、眠気で泣くなど感情表現がはっきりしている・あやされると声を出して笑う

高月：ずり這い、はいはい、つたい歩き、歩行など、自分なりの移動手段で意のままに動き、興味のある物に近づく・つまむ、握る、投げるなど、指先を使った遊びを楽しむ・機嫌のよいときには盛んに喃語を話す・友達と触れ合う  
午前後は必要だが生活リズムが一定してくる

ねらい：体調や気温に留意してもらい、梅雨期を気持ちよく過ごす・発達状態に応じた遊びや活動を十分に楽しむ。

安全・健康：戸外に出たときなど、動きが活発になるので遊んでいる姿から目を離さず、安全確認をする・気温に応じて、室温の調節、衣服の着脱をし、梅雨期から夏期を快適に過ごせるようにする。

【内容】

【環境構成】

【予測される子どもの姿】

【保育者の援助】

<p>養護</p> <p>生命の保持・情緒の安定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生活リズムを整え、生理的欲求を満たされて、安心して心地よく過ごす。</li> <li>○●汗を拭いてもらい、必要に応じてシャワーを浴び、梅雨期を心地よく快適に生活する。</li> <li>●自分の生活リズムで過ごす。</li> <li>●信頼できる保育者との触れ合いの中で愛着を深め、安心して自分の欲求を表現する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者と家庭の様子を聞きながら、生活のペースを把握していく。</li> <li>○●汗を拭くことができるよう、タオルを準備する。</li> <li>●シャワー室には必ず鍵をかける。</li> <li>●室内の温度や湿度に留意する。</li> <li>●個々の欲求が十分に満たされるように、保育室の環境を整える。</li> <li>●どこにいても子どもの姿が見えるように机やオムツ交換台などを配置し、保育室の環境を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○泣いたり、笑ったり、手足を動かしたりして、自分の欲求を知らせる。</li> <li>○●着替えの際、汗のためなかなか衣服が脱げずに怒ったり泣いたりする。</li> <li>●他児とのリズムがずれ、他児が寝ているときに起き、起きているときに眠る。</li> <li>●泣いて抱っこを求めたり、近付いたり、後追いつたりなど、自分から保育者に関わろうとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○聞いていることを意識し、声のトーンや話口調に気をつける。</li> <li>○●「汗をかいたね」など言葉をかけながら、個々に応じた方法で着脱し、きれいになる心地よさを感じられるようにする。</li> <li>●毎日の生活リズムを記録し、個々に最も適したリズムを見いだせるように接する。</li> <li>●優しく抱き「大丈夫だよ」と声をかけ、周りの様子が見えるよう膝に抱き、そこから遊び出せるようにする。</li> </ul>
<p>教育</p> <p>健康・人間関係・環境・言葉・表現・食育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○立位で抱かれたり、マッサージしてもらい、保育者との触れ合いを楽しむ。</li> <li>●はいはいをしたり、歩いたり、転がったりと、体を動かして遊ぶことを楽しむ。</li> <li>●押す、引く、投げる、たたき合わせするなど、指や手を使った運動遊びを楽しむ。</li> <li>●喃語を発し、応答してもらうことを喜ぶ。</li> <li>○ゆったりしてミルクを飲む。</li> <li>●様々な食材や形状に慣れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安心して遊べるようなスペースを準備し、音の出る玩具で遊べるようにする。</li> <li>●十分に体を動かせるよう、個々の発達に応じたスペースをつくる。</li> <li>●転がしたり、押ししたりして遊べる玩具を準備する。</li> <li>●指人形や人形を準備する。</li> <li>○家庭での授乳量・時間を把握しホワイトボードや視診簿に記入し保育者で共通認識する。</li> <li>●こぼれてもよいような環境を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○名前を呼ばれたり、音のする方に顔を傾げる。</li> <li>●保育者に援助を求め、歩きたがる。</li> <li>●物につまずき、転倒する。</li> <li>●玩具を手に取り、たたき合わせたり持ちかえたり、投げたりする。</li> <li>●カゴやカバンを荷物棚から引き出し、引きずって歩く。</li> <li>●大きな声を出したり、声を出したりして笑う。</li> <li>○保育士の顔を見ながら安心する。</li> <li>●スプーンや手づかみで食べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○首がすわったら、横抱き以外の抱き方をし、優しく語りかけ、さまざまな体位を経験させる。</li> <li>●保育者は常に全体を見渡し、個々に応じた次への発達を促す援助を行う。</li> <li>●玩具以外の物に興味を示し、出したりたたいたり口にくわえたりする子どもの姿を、いたずらではなく遊びの一環として捉える。</li> <li>●子どもの話したいという気持ちが増すように表情豊かに言葉を返し、嬉しくなるような応答をする。</li> <li>○授乳中に誤飲に気をつける。</li> <li>●持ちやすい形状にしたり、スプーンを持ちたがる気持ちを受け止める。</li> </ul>

職員との連携

●後追いつたり、保育者を求めて泣いたりする子に対し、優しくきめ細かく対応できるよう話し合っておく。 ●様々な役割分担を決めるが、子どもの様子に応じて柔軟に対応できるようにする。

家庭との連携

●調節・着脱しやすい衣服を準備してもらおう。 ●いたずらと見られる行動も子どもの探索活動の一つとして大切な行動であると知らせるとともに、危険な場合はそのつどくり返し伝え、子どもが覚えられるようにとアドバイスする。

<自己評価>

子どもたちもそれぞれ行動範囲が広がり活発。一つの場所にとどまらず、子どもの自由な行動をみながら環境を変えていくことができ、危険がない限りのびのびと過ごしていたと思う。また、歌や絵本、お返事したり少しずつ集団で活動することも増えてきたが、まだまだ個々を大切に関わっていくようにしていきたい。

<取り組みの状況と保育士の振り返り>

低月齢児…ミルクの量を増やすことで満たされて、午前中もよく眠れるようになる。起きていた時はいろんな体勢を経験させていくと、成長の様子が把握することができた。

高月齢児…異年齢児との関りや保育者との関りから、言葉や動作などの真似をすることが増えたと思う。引き続き、関りが持てる環境と友だちと関わろうとする気持ちを大切にしながら、保育者が仲立ち役になりやり取りができるようにしていきたい。

<食育の取り組みの状況と振り返り>

・それぞれ食事の形態や段階が上がる。また、ミルクの量も減り食事で満たされる。また咀嚼の状況を観察しながら、詰め込みすぎや誤飲に気を付けていく。

・食事の前に手を洗うことを覚え始め、習慣になってきた。また、食事の前後の挨拶も保育者の動作を真似する様子が見られた。